時事新報

官海何ぞ不活潑なる

官吏の一類が政府部内に蟄居して世間を知らず自から尊大に構へて政治社會を意の如くならしめんと欲するも無理ある所望にして到底實際に行はる可きみとに非ずとは每度我輩の痛論する所なれども今日に至るまで尚は其過に心付く者少なきみを遺憾あれ殊に官吏の中にても上流の貴顯と稱する輩に至りては蟄居も亦甚だしく其往來交際する所のものは同僚にあらざれば先づ同郷の人のみにして曾て廣く世間に交りを求るの道を知らず平生の慣行新て此風あるが故に遇まを要用の爲めに人に面會し人の家を訪はんとするみとあるも世間の耳目に觸るゝを恐れて種々樣々に外面を装ひ忍び〳〵に相逢ふ其有樣は何か人に語る可らざる私事にても犯すの狀に異あらず其相逢ふの事情斯くも秘密あるが故に世間にては特に之に注目して苟も少しく名ある人物が互に訪問し互に相逢ふと云へば恰も社會の一事件のやうに心得て色々の臆を附會し傳へ又傳へて遂に大問題を生ずるみともあるに非ず當人の身の爲めには不自由にして浮世の爲めには流言の種を蒔くものと云ふ可し蓋し昔年專制の政府に法律の明あらざる時代には往々嫌疑を以て罪に陷りたる者も少なからず士人の一挙一動誤りて身を殺したるの實例さへありしが故に苟も自から明にせんとする者は交際の方向を慎み兎に角に危きを避るみと專一なりしかども文明の進歩と共に是等の用心は無用の沙汰に屬して法律に反せざる限りは誰れが誰れに逢ふも之を咎る者とてはあるまじ然るに今の雲上の貴顯輩が小乾坤の内に籠城して世間の交際を恐るゝみと私事密通の罪を恐るゝが如くするは專制時代の殘夢に眠りて文明の自由を解せざる者と云ふ可し我輩が政府の人に向て身を輕くせよと勸告するも即ち此過の意味なり

或は彼の貴顯輩は自家の門に出入する者多きを見て得意に傾き千差萬別の世態は出入の者より聞て畔おらさるは如し吾れみを坐して天下の形勢を知る者ありと驚心するの意味もある可しと雖も其事情を喩へて云へば日用の寓輪を出入の商人より買ふて世の中の相場を知らざる者の如し其物價に正當なるもの少なきは推して知る可し能に人事紛擾の名を成す可きのみ尚は甚だしきは此輩が見角外面を装ふて拙者は餘り新聞紙を見ず と云ふ者あり其人を見ずとは知何なる意味か、新聞の記事論說をとは見るに足らずと高く構へて自家の卓見論を示す積りにせもあらんか殆んど解す可らざる事柔多り書面あれば之を新聞紙も不用あり しならんなれども今は則ち民論の世の中にして新聞紙上數行の文字は以て天下の人心を動かすみとあるに非ずむかしは貴顯の一言以て國の公の爲め人の私の爲めに大利害を左右したるみとありと雖も立憲政體は恩威手段の書擧法と異なりして今は則ち貴顯の力と新聞紙の力と將さに新旧交代せんとする其時に當りて拙者は新聞紙を見ずと云ふ者あり其人を見ずとは知何なる意味か、新聞の記事論說を見ずとは知何なる意味か、新聞の記事論說を見ずとは見るに足らずと高く構へて自家の卓見論を示す積りにせもあらんか殆んど解す可らざる事柔多り書面あれば之を新聞紙も不用あり しならんなれども今は則ち民論の世の中にして新聞紙上數行の文字は以て天下の人心を動かすみとあるに非ずむかしは貴顯の一言以て國の公の爲め人の私の爲めに大利害を左右したるみとありと雖も立憲政體は恩威手段の書擧法と異なりして今は則ち貴顯の力と新聞紙の力と將さに新旧交代せんとする其時に當りて拙者は新聞紙を見ずと云ふ者あり其人